

中2クラス通信 8月号 [第2次世界大戦終戦 75周年に寄せて]

一学期が終わり、待ちに待った夏休み。8月に突入し、やっと梅雨明けしたと思ったら今度はいきなりの猛暑…皆さん、夏らしいこと、少しはできていますか？今年にはCOVID-19(新型コロナウイルス感染症)の影響で海外旅行なども難しく、日本国内で夏休みを過ごす人が多いのではないのでしょうか。せっかくなので、ふだんじっくり学んだり向き合う機会がないかもしれない様々な事象に目を向けてもらえたらいいなあ、と思っています。

中2の皆さんは今年、日社で歴史を学んでいますね。8月は、日本にとっても世界にとっても歴史上で非常に大きなできごとがあった月です。

————— 今から75年前の1945年。第二次世界大戦(日本では太平洋戦争)の終盤。8月6日に広島、9日には長崎に世界で初めて原子爆弾が投下されました。また、8月15日には昭和天皇の「玉音放送(天皇の声を放送すること)」によって、日本が戦争に敗れ、ポツダム宣言を受諾^{じゅだく}したことが、国民に発表されました。8月15日は、日本にとっての「終戦の日」です。

※詳しくは三学期に日社(近代・現代史)の授業で学びます

さて、皆さんにとって「75年前」は遠い過去でしょうか。私は昭和62(1987)年の生まれなので、私が生まれた時はまだ終戦から42年しか経過していないことになります。九州出身である私の祖父母はこの戦争を10代——ちょうど今の皆さんと同年代のころに経験しています。私が幼少のころ、祖母はよく私に戦時中の話をしてくれました。当時は知識も理解力も乏しく、戦争は大昔に起こったこと、自分とはあまり関係のない、どこか遠い世界の話のような気がしていました。しかし今になって思えば、もしその戦争で祖父が祖母のどちらか一方でも亡くなっていたら、私はここに存在していないのです。中華学校でこうして皆さんと出会うこともなかったでしょう。そして、それほど恐ろしい戦争が、私の生まれるたった42年前に終わったばかりなのだという…もう一度問います。皆さんにとって「75年前」は遠い過去でしょうか。

この75年の間に、日本をはじめ戦争に関わった多くの国が復興^{ふっこう}を遂げ、大きく発展しました。しかしその一方で、戦争が遺した爪痕^{つめあと}によって苦しめられている人も未だ多く存在します。また、日本は多大な犠牲^{ぎせい}を払った末に戦争に敗れましたが、ある国々にとっては加害国でもあるのです。戦争は、人と人が、そして国と国が、互いに憎み合い、命^{いのち}を奪い合う、恐ろしく悲しい歴史です。現代に生まれた皆さんはもちろん、私ですら実際の戦争を知りません。それでも、「自分たちが生きるこの平和な時代がどう築かれてきたのか、そして今後どう維持すべきなのか」ということを少しでも頭の片隅^{かたすみ}において、過去と未来の両方に想いを馳せてほしいと私は考えます。中学2年生の夏という貴重な時間のうち、ほんのひと時でもかまわないので、皆さんがこういった「歴史」に興味をもち、少しでも考えるきっかけになればいいなと思い、この文章を投稿します。また、広島と長崎の原爆について資料ページのリンクを貼っておくので、よかったら見てみてください。

担任より